

「旭川市エイズ等対策推進懇談会」議事録（令和6年度）

日 時	令和6年11月27日（水）午後6時30分から午後8時まで
場 所	旭川市総合庁舎7階 大会議室C（旭川市7条通9丁目）
出席者	参加者8人（五十音順） 石田良太氏，近江 勉氏，柿木康孝氏，上村利彦氏，北 敏博氏，久保千夏氏， 徳田桃子氏，坂東裕美氏 事務局6名 保健所長 鈴木，保健予防課長 阿保，保健予防課主幹 山本 感染症対策係主査 飛田，感染症対策係 近澤
会議の公開・非公開	公開
傍聴者の数	0人
議事	1 進行役の決定について 2 会議の公開について 3 報告事項 （1）エイズ・性感染症の発生動向について （2）令和5年度旭川市エイズ等予防対策事業について （3）令和6年度旭川市エイズ等予防対策事業について 4 意見交換 エイズ・性感染症における若年層への予防啓発について
資料	資料1－① エイズ発生動向について 資料1－② 旭川市性感染症発生動向（定点4疾患）について 資料1－③ 梅毒発生動向について 資料2－① 令和5年度旭川市エイズ等予防対策事業 資料2－② 令和5年度HIV検査受検者アンケート結果 資料3 令和6年度旭川市エイズ等予防対策事業 資料4 「生と性を考えよう！通信」 参考資料1 旭川市エイズ等対策推進懇談会開催要綱 参考資料2 旭川市エイズ等対策推進懇談会公開規定
会議内容 (1) 進行役の決定について (2) 会議の公開について (3) 報告事項 [参加者] [事務局]	旭川市エイズ等対策推進懇談会開催要綱第4条の規定により，柿木氏が選出された。 参加者の賛同を得て，公開会議として実施する。 ア エイズ・性感染症の発生動向について 資料1－①，資料1－②，資料1－③に基づき事務局から説明。 ・4ページの性感染症4疾患定点医療機関当たりの平均報告数は，旭川市は全国，全道に比べて高いが，定点医療機関に偏りがあり患者が集中しているのか，実際の数が多いのか。 ・旭川市の定点医療機関は産婦人科2か所，泌尿器科1か所のため，男女別だと女性が多くなる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川市の性感染症の定点医療機関当たりの平均報告数は、札幌市などの都市部同様に高い傾向にある。全数報告の HIV や梅毒の届出では、市外の患者が一定数いる。性感染症の場合は、地元より都市部の医療機関を受診する傾向があり、患者増に影響している可能性があると思われる。 ・性感染症の定点医療機関は、一月に当該疾患の患者を診断し報告する。それを示しているのが4ページの性感染症4疾患定点医療機関当たり平均報告数である。3ページの性感染症4疾患定点医療機関報告数は、医療機関から報告された実数のため、参考値として見てほしい。 ・医療機関の偏りについては、他の地域の詳細は不明だが、泌尿器科と産婦人科に依頼するのが標準的なため、旭川市の性感染症は実際増えていると思う。今日のデータにはないが、若い世代の子宮頸がん検診受診者でヒトパピローマウイルス検査の陽性者の割合は非常に高い。若年層での性行動の活発化があると思う。
[参加者]	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関の診療現場においても、クラミジアは増えている。 ・令和4年、令和5年と性感染症患者が増加しているが、新型コロナウイルス感染症の予防で人との接触を避けたり感染対策の徹底により、免疫が低下し、感染しやすくなったというような報告はあるか。
[事務局]	<ul style="list-style-type: none"> ・梅毒に関しては、免疫の低下は恐らく関係ない。梅毒は治療すれば、確実に病原性がなくなり順調に回復するが、再感染がある。はしかなどと違い、一回罹ればもう罹らないという疾患ではない。子どもの病気で、人との接触を控えたために免疫が低下したという要因で増えたものもあるが、梅毒にはあてはまらない。
[参加者]	<ul style="list-style-type: none"> ・急激に増えた原因は何なのか。
[事務局]	<ul style="list-style-type: none"> ・個人的な推論になるが、コロナ期間は、表立っては人との集りを避けましょうということだったが、若い世代に限らず、情報ツールを使ってのパーソナルなコミュニケーションが減ったわけではなく、性産業従事者等を通じた感染は水面下で増えていたのではないかと考えている。 <p>あわせて、自覚なく、未治療で診断されずに水平感染を起こしているケースも以前より増えているのではないかとと思われる。</p>
[参加者]	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの期間中は病院受診を控えていたが、症状が出てきて病院受診を控えなくなってきた受診行動の変化もあると思う。
[事務局]	<ul style="list-style-type: none"> ・梅毒の発生届に HIV 検査のチェック項目はあるか。あればどの位検査しているか。 ・チェック項目があり、大体は HIV 検査も実施されている。実施していない場合は、医療機関での検査を促したり、検査予定がない場合は、保健所の HIV 検査を紹介するよう依頼している。
[参加者]	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に陽性者はいるか。梅毒だと HIV の陽性者は多いか。
[事務局]	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川市の梅毒の届出では、HIV 陰性者がほとんどだが、過去には梅毒と HIV の同時感染の例もあった。性感染症に罹ると他の性感染症に罹りやすいという事はある。
	<p>イ 令和5年度旭川市エイズ等予防対策事業について 資料2ー①、資料2ー②に基づき事務局から説明。</p>
[参加者]	<ul style="list-style-type: none"> ・「生と性を考えよう通信」は学生一人一人に行き渡るのか。それともどこかに置いてあって希望者が取りに行くのか。
[事務局]	<ul style="list-style-type: none"> ・配付方法については今年の懇談会で御意見をいただき、学生は一人一台タブレットを

	<p>所有し、データで送付すると全員に配信できるということだったため、学校には紙ベースではなくデータで提供した。その後の活用状況までは把握できていないため、今後、確認の機会があれば聞いていきたい。</p>
[参加者]	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から情報を取りに行くというよりは、希望の有無に関わらず全員配付の方が良いと思う。
[事務局]	<ul style="list-style-type: none"> ・送った後は学校に任せているということか。全部の学校にデータを送っているのか。 ・活用方法については各学校の判断になると思われるが、市内の全ての中学校、高校、専門学校、大学にデータを送っている。
[参加者]	<ul style="list-style-type: none"> ・電子媒体で送付した後、どう活用しているか学校に確認してみてもどうか。
[事務局]	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も発行予定があるので、学校に確認したり、教育委員会などにも効果的な周知方法や活用方法など相談し考えていきたいと思う。
[参加者]	<ul style="list-style-type: none"> ・通信の内容は、学生は病気の名称だけではわからないため、受診に繋がるために、どのような症状が出たら受診するかなど、QRコードから必要な情報を取得できる方法があると良いと思う。
[事務局]	<ul style="list-style-type: none"> ・HIV検査のアンケート結果で、受検回数の多い方はリスクの高い行動があると思われるが、予防に関する知識提供は検査の中でどのようにしているのか。 ・感染経路や予防方法等について説明し、パンフレット等を配付している。リピーターは、知識はあるが自分の身を守るために定期的に受検する方が多かったり、リスク行動はないが非常に不安が強く、繰り返し受検する方などがいた。
[参加者]	<ul style="list-style-type: none"> ・リピーターは、質問が深まっていくと思うが、毎回、型通りの対応なのか。
[事務局]	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの人に合わせて対応しているが、昨年のリピーターは、知識もあり予防行動もとれているが、医療機関ではなく保健所で定期的に検査したいという事で受けていた。 ・性産業に従事している方は、ハイリスクのため、保健所の検査を受けると決めて定期的に来る人が多い。知識はあるが仕事上やむを得ない行為もあり、検査を繰り返している方もいる。 ・基本的に予防行動は皆にとってもらいたいのと、リスクがあれば検査するという両面をうまく使い分けている。 ・受検者のバックグラウンドは様々で、セクシュアリティをオープンにして来る人もいるが、基本的には匿名で自らの情報を話さず受検できるのが検査の原則なので、プライバシーへの配慮は必要。何度も来てお互いを認識している場合は、話の内容を広げるとは可能だが、ケースバイケースで対応していくのが現実的などころ。
[参加者]	<ul style="list-style-type: none"> ・性感染症は20代に多いということだが、大学生には情報が入ってこない。保健所のHIV梅毒検査も今回初めて知った。子宮頸がんワクチンは、テレビやネットで話題になり、友人と調べたりしたが、性感染症について話すことはなかった。20代や大学生向けの取組はあるのか。
[事務局]	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の意見交換のテーマでもあるが、20代や大学生へは学校を通しての周知が中心となるものの、若年層への働きかけ方が難しい。先日、当課で子宮頸がんワクチンの会議をした時に、大学の食堂にQRコードを置いてアクセスする話があり、工夫次第と思われる。色々とアイデアをいただけるとありがたい。
[参加者]	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度は、休日のHIV検査は0回であったが、休日は実施していないのか。
[事務局]	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ前は実施していたが、コロナ対策で休止となり、少しずつ戻ってきている。令和5年度は、休日検査は実施せず、夜間検査を2回実施した。今年は、夜間検査の回数

	<p>を増やし、12月1日に世界エイズデーに合わせて休日検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従前は、採血後の血液を道立衛生研究所に送って検査し、結果は後日伝えていたが、数年前から迅速検査となり当日結果を伝えている。その迅速検査薬が製造元の生産遅延により枯渇しており、状況が改善するのを待っているといった事情がある。旭川市は年度内は予定の検査回数は実施できるが、検査を中止せざるを得ない自治体もあると聞いている。
[参加者]	<ul style="list-style-type: none"> ・出前講座の令和5年度の実績6回は伸び悩んでいないか。
[事務局]	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ前は10数件あったので、比較すると少ない。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が五類に移行してからの実施であったため、周知期間も短かった。今年度は、現時点で申込みが数件きている。中学校は例年、卒業式前に依頼が来るため、これから申込みがくるのではないかとと思われる。 ・学校側からは、スケジュール的に忙しかったりコロナで途切れた感があると聞いたが、学校現場の現状はどうか。
[参加者]	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の入れ替わりもあるため、年間スケジュールから抜ける場合もある。大事な内容なので、高校3年生よりは早い時期の1年・2年がいいと思う。通信の配付方法も、学校はデータが届くとすぐに保護者や生徒のスマホに強制的に送る事ができる。紙だと子どもは持って行かない。データの方が低コストで良いと思う。 ・学校カレンダーは、今時期から少しずつ作成するため、案内があれば声もかけられる。若い方が知ることで予防でき、知識を身につけることもできる。学校には毎日のようにチラシが配付されるので説明をしないと見ない可能性もある。自校での活用方法を確認してみたいと思うが、中学校3年生の保健体育の授業では、エイズについて学ぶ事になっているので、通信のデータ部分をうまく活用しながらやっていると良いと思う。
(4) 意見交換	<p>ウ 令和6年度旭川市エイズ等予防対策事業について</p> <p>資料3、資料4に基づき事務局から説明。</p> <p>意見交換「エイズ・性感染症における若年層への予防啓発について」</p>
[参加者]	<ul style="list-style-type: none"> ・資料3の普及啓発活動事業の総括にもなるが、若年層特にAYA世代への啓発については、どうしたら良いか。
[参加者]	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業で学ぶというよりは、大学のサークル活動で出前講座に行く時に、自分達で勉強して学ぶ事が多いので、性教育の出前講座を学生に頼むのも方法。出前講座は、国際医学生連盟だけでなく、学内に同様のサークルがあり実施している。
[事務局]	<ul style="list-style-type: none"> ・母子保健の分野で、スコラジャパンの学生と市が健康教育を実施したことがある。市内の学校で、学生と役割分担して実施したが、生徒の反応が非常に良く効果的であった。 ・保健所から職員が来ると、相手側が敷居の高さを感じる事もあるため、同年代のピアカウンセリングのような場が有効であると思う。保健所とタイアップできると良いと考えている。 ・本日はエイズ・性感染症に関する懇談会であるが、若い世代が生涯にわたって健康な人生を歩めるようにといった視点での啓発が重要である。最近、プレコンセプションケアが重要視されており、性感染症に限らず若い世代へ包括的に活動展開ができると良いと考えている。
[参加者]	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関の派遣講座で、教育大学や医大に行くことがあるが、専門分野の学生でも知らない学生が多いため、全ての教育課程の早い時期に学習できると、ある程度のベース

	<p>が整うと思う。若い人の発想力や周知力や伝え方は素晴らしく、年の近い大学生だと羞恥心なく、自ら楽しんで学習ができる。当院は、地域貢献の役割もあるためサポートも可能である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周知に関しては、毎月実施している中学校校長会で案内の場を作ることができる。 <p>文書は定型的な鑑文が多いが、管理職や養護教諭が危機感を持ち、意識を高められるような記載があっても良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健委員の年間活動に外部講師に参画してもらい、子ども達と一緒にポスターを作成するなどの啓発活動を考えるのも効果的と感じた。 <p>[事務局] 本日の会議の記録は会議の公開規程の第 5 条に基づき事務局で要点記録方式で取りまとめた内容を御確認いただき、お名前は記載せずに公表することとなっておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、以上をもちまして旭川市エイズ等対策推進懇談会を閉会します。本日はお忙しい中ありがとうございました。</p>
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------